

供給・使用表（SUT）推計について

統計改革推進会議における GDP 統計の見直し論議に関連して、「現行の産業連関基本表（IOT）と新 SNA における供給・使用表（SUT）の関係」および「供給・使用表（SUT）の推計に関わる課題」について概説する。

- I) 産業連関基本表（IOT）と供給・使用表（SUT）の関係
 - i) 二元的部門分類基準：生産物分類と生産活動（activity）分類
 - ii) 生産物分類と生産活動分類の部門対応
 - iii) 産業構造特性の計量分析を目的とする IOT では 1 対 1 対応の正方行列

- II) GDP 統計の見直しの基礎となる供給・使用表（SUT）の推計
 - i) SUT 供給表から生産物の部門別供給および総供給（＝総需要）を推計
 - ii) 生産物（行）部門の産業（列）部門に対する供給（＝中間需要）
 - iii) 総供給から中間需要合計を控除したものが最終需要
 - iv) 中間需要合計+最終需要合計＝総需要＝総供給
 - v) SUT の使用表から生産活動部門別付加価値および総付加価値を推計

- III) 供給・使用表（SUT）の推計に関わる統計調査上の課題
 - i) 「サービス」の生産物分類および二元的部門分類基準の適用
 - ii) 統計単位としての「サービス」の部門間取引の量的把握は可能か？
 - iii) 調査単位（調査客体）は事業所か企業か？
 - iv) 特にサービス産業の調査名簿（事業所・企業）の整備
 - v) 特に使用表にまつわる投入調査は大規模統計調査を必要とする